

高校球児が変わったのか？

今年の夏の高校野球は、劇的な決勝戦でその幕を閉じました。そのあとの異常な盛り上がりは余計なものです。再試合ふくめ24回の熱闘は確かに歴史に残る対戦であったと思います。

ただ、今大会は終盤の大逆転が非常に多かったと思います。ほぼ勝負が決まり、あと1回、あと1アウトをとるだけというところから連打が続き、あれよあれよという間に逆転してしまうケースが何試合もありました。負けていたチームを応援している立場からすれば、「奇跡の逆転のシーンを見られて感動した。」「やっぱり最後まであきらめてはいけない。」「これこそ高校野球だ。」などという声が上がってきますが、果たしてそうなのでしょうか。

高校生はプロに比べれば守備も打撃も当然未熟であり、負けたら終わりというトーナメント戦で闘っているのですから、1点1点をコツコツ取りにいく戦い方をせざるをえません。高校野球の魅力というのは、そのプレーの中に一人一人の選手が集中して全力を尽くしているところにあります。もちろんそのために厳しい基礎練習を繰り返し行ってきたことが容易に想像できますから、たとえそれが未熟なプレーであっても私たちは感動するわけです。

その意味で今年の試合を眺めてみますと、大逆転劇の何試合かは全く感動できませんでした。むしろ逆転を許した高校生のプレーを情けない思いで観戦していました。確かに攻める気持ちは「打撃」のときに出やすいのかもしれませんが、「守備（投球）」においても攻める気持ちがなければなりません。多くの逆転劇は、腕が縮こまったのフォアボールや連打・エラーをきっかけに起こりました。気持ちが逃げていたのです。

甲子園に出てくるほどの高校なのですから、選手たちは普通の高校生より多くのプレッシャーを乗り越えてきた「精神的に鍛えられてきた高校生」であるはずですが、それなのに当然のプレーをこなし、相手の反撃をきっちり抑えることがなぜできなかったのでしょうか。杞憂であっても欲しいのですが、高校球児までも変わってきたのではないかと思いたくなる夏でした。

'06年度1学期通知表結果

9科目別平均	英語	数学	国語	社会	理科	5科目計	音楽	美術	保体	技家	9科目計	
学年	1	4.5	4.5	3.7	4.0	3.9	20.5	3.8	3.6	3.5	3.7	35.2
	2	4.6	5.0	4.4	4.4	4.8	23.2	3.8	4.0	3.6	3.8	38.4
	3	3.7	4.3	4.0	3.7	4.0	19.7	3.3	3.7	3.3	3.7	33.7

5科目別内申評定割合（％）

	英語	数学	国語	社会	理科
5	56	60	28	40	32
4	28	36	36	28	48
3	16	4	28	28	20
2	0	0	8	4	0
1	0	0	0	0	0

9科目合計内申割合（％）

	'06	'05	'04	'03
40～45	20	17	33	64
36～39	36	48	37	15
32～35	24	13	10	18
27～31	16	13	13	3
9～26	4	9	7	0